

JIS

UDC 622.34 : 543.062 : 546.19

M 8132

鉍石中のひ素定量方法

JIS M 8132⁻¹⁹⁹²

平成 4 年 9 月 1 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和 28. 12. 15 改正：平成 4. 9. 1

官 報 公 示：平成 4.

原案作成協力者：日本鉱業協会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 資源エネルギー部会（部会長 福原 元一）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料規格課（〒100 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

鉱石中のひ素定量方法

M 8132-1992

Ores—Methods for determination of arsenic

1. **適用範囲** この規格は、鉱石中のひ素定量方法について規定する。ただし、他の日本工業規格でひ素定量方法が規定されている鉱石には適用しない。

備考 この規格の引用規格を、次に示す。

JIS K 0050 化学分析方法通則

JIS K 0115 吸光光度分析通則

JIS K 0121 原子吸光分析のための通則

JIS K 8005 容量分析用標準物質

JIS K 8012 亜鉛(試薬)

JIS M 8083 ばら積み非鉄金属浮選精鉱のサンプリング方法

JIS M 8101 非鉄金属鉱石のサンプリング、試料調製及び水分決定方法

JIS Z 8401 数値の丸め方

2. **一般事項** 定量方法に共通な一般事項は、JIS K 0050、JIS K 0115及びJIS K 0121による。

3. 分析試料の採り方及び取扱い方

3.1 **試料の採取と調製** 試料の採取と調製は、JIS M 8101及びJIS M 8083による。

3.2 **試料のはかり方** 試料のはかり方は、次による。

- (1) 試料のはかり採りに際しては、試料をよくかき混ぜて平均組成を表すように注意し、また、異物が混入していないことを確かめなければならない。
- (2) 試料は、 105 ± 5 °Cに調節されている空気浴に入れて乾燥し、2時間後に空気浴から取り出し、デシケーター中で常温まで放冷する。乾燥減量が2時間につき0.1 %以下になるまで操作を繰り返す。ただし、硫化物などの含有のため変質しやすい試料の乾燥条件(温度、時間など)は、受渡当事者間の協議による。
- (3) 試料のはかり採りには化学はかりを用いて、原則として規定された量を0.1 mgのけたまではかり採る。

4. 分析値の表し方及び操作上の注意

4.1 **分析値の表し方** 分析値の表し方は、次による。

- (1) 分析値は質量百分率で表し、JIS Z 8401によって、0.1 %未満の場合は小数点以下第4位に、0.1 %以上の場合は小数点以下第3位に丸める。
- (2) 分析は同一分析室内において2回繰り返して行い、これらの差が室内許容差(以下、許容差という。)未満のとき、その平均値を求め、JIS Z 8401によって、0.1 %未満の場合は小数点以下第3位に、0.1 %以上の場合は小数点以下第2位に丸める。
- (3) 2回繰り返して行った分析値の差が許容差以上のときは、改めて2回の分析をやり直す。
- (4) 許容差は、表1による。